

さっと黒板消して消しても粉が落ちないことを見せる大山会長＝高津区で



赤、青、緑など一見するとクレヨンだが、いずれもチョーク。国内二位のシェアを誇るメーカー「日本理化学工業」(川崎市高津区久地二)が二〇〇五年に売り出した「粉の出ない」チョーク「キットパス」だ。
開発した同社の大山泰弘会長(もとは「父のチョークを超えたかった」と打ち明ける。昭和の初めごろに、東京都大田区で父要蔵さんが興した文具雑貨の卸売業が前身。石ころチョーク(白墨)を使う学校の先生が「肺

孫娘の落書きをヒントに

粉の出ないチョーク「キットパス」

結核を患うことがあると聞き、無害のチョークの開発を決意。一九三七(昭和十二)年に炭酸カルシウムを原料にした初の国産チョークを製造した。大山さんは七五年、社長就任と同時に現在の高津区に知的障害者らを雇用するモデル工場をつくり、開発・生産の拠点を移した。当時、オフィスなどでは黒板が敬遠され、粉が

でないマーカーを使ったホワイトボードに移行しつつあった。少しでも粉が飛ばないように改良を重ねるとともに、「将来にはチョークがなくなってしまうのか」と危機感をももち、九三年から

「粉ゼロ」のチョーク開発に踏み切った。大山さんは「材料の選定が本当に難しかった」と振り返る。もと

もと粉末を固め、それを削りながら文字を書く道具。「飛散量を減らすことはできるが、ゼロには…」

十二年間に試行錯誤した試作品は二百点に上った。苦戦する材料

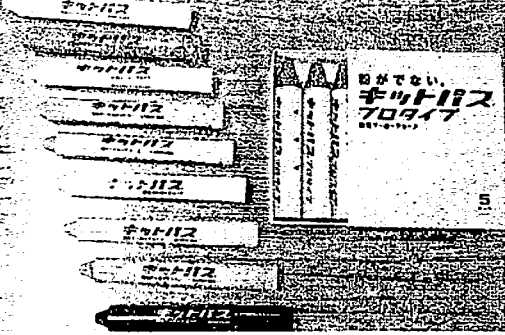
後、学校現場への参入を目指すという。

父の代から夢見たチョークを生み出した大山さんは「ぜんそくを患う児童がいても使用できる。すべての人に安全です」と、胸を張

った。「口紅は粉が出ない」。

(酒井博章)

キットパス (カートリッジ詰め替えタイプ) 巻とキットパスプロタイプ (太字タイプ)



キットパスは3種類。通常のチョークより1.5倍太い紙巻きタイプは5本入りで750円。お絵描き用などの紙巻きタイプは6本入り500円。芯を詰め替えるカートリッジタイプは1本150円。12色を製造し、「黒板だけでなくさまざまな場面で使える」(大山会長)。

三田文具(川崎市高津区溝口1)などで販売。問い合わせは日本理化学工業☎(811) 4121へ。